

ITS・新道路創生本部

西部 陽 右

2008年12月、欧州委員会（EC）からITS行動計画が発表され、2009年秋、CEN（欧州標準化委員会）およびISO（国際標準化機構）において協調型ITSの標準化を担当する新WGが設立された。さらに12月には協調型ITSの標準化についてMandate（委任）がECより発出され、欧州を中心とする協調型ITSの標準化の取り組みが加速している。本調査研究では、これらの取り組みについて概要を紹介する。

(1) ECによるITS行動計画の発表

2008年12月、欧州委員会（EC）からITS行動計画が発表された。この行動計画は、「情報提供」、「交通管理」、「安全・安心」、「協調型ITS」、「データセキュリティ」、「欧州内のITS展開」の6つの分野について、2009年から2012年の4ヵ年計画が示されている。この行動計画の目的は、欧州内を移動する旅行者や運転者がシステムを共有することで情報提供による利便性を向上し安全安心な社会を実現するため、ITSシステムにおける相互運用性（インターオペラビリティ）を実現することであり、規格の標準化が重要課題とされている。協調型ITSの分野においては、2010年から2013年までの間でシステムの開発及び評価を行うこととされている。

(2) CEN TC278 および ISO TC204 における新WGの設立

CENにおいてITS分野の標準化を担当するTC278は、2009年3月にプラハで開催された総会で、協調型ITSについて更なる調査を行いTC278の関与について助言するための作業グループとしてWG16の創設を承認した。またISOに

おいてITS分野の標準化を担当するTC204でも、同月バルセロナで行われた総会で、対応する作業グループとしてWG18の設立を決定し、CENと協力して協調型ITSの国際標準化を推進することとなった。

(3) ECによる協調型ITS標準化についてのMandateの発出と受諾

2009年10月、ECの企業産業総局は、ITS行動計画に基づき、欧州における標準規格策定団体であるCEN、ETSI（欧州電気通信標準化機構）に対し、欧州における協調型ITSの展開のための首尾一貫した標準規格やガイドライン類の策定を求めるMandate『M/453 EN』を発出、30ヶ月以内での標準規格の策定を求めた。2010年1月、CENおよびETSIはこのMandateに対して受諾を表明、両者による協調型ITSの標準化活動が本格的に開始されることとなった。

(4) 協調型ITS標準化における欧米協調の動き

ECの情報社会総局と米国の運輸省・研究革新技術管理局は、協調型ITSの開発分野を特定し、協調型ITSに関する世界的にオープンな標準を開発することを目的に、協調型車両安全アプリケーションの研究プロジェクトにおいて協力し、各地域の研究の価値を高めることについて協議を行ってきた成果として、2009年11月、『協調型ITSの開発協力に関する共同宣言』に署名した。今後、関連する標準を国際的に調和させるための政策声明や、協調型車両安全アプリケーションの共同研究の実施計画、フィールド運用試験データの共有を可能にする共通的な方法の開発、といった形で共同宣言の内容が具体化される予定である。

(5) M/453に対する第1回CEN/ETSI合同報告書

2010年4月、M/453に対する第1回

のCEN/ETSI合同報告書が発表された。この報告書においては、M/453に基づく協調型ITSの標準化活動に関し、1.期間内に策定されるべき標準のリスト、2.CENとETSIの役割分担、3.作業計画実行のロードマップ、4.CENとETSIの協調活動、5.ECとの調整、について記述されている。

(6) ISO TC204 WG18 ニューオーリンズ会議での議論

2010年4月、ニューオーリンズにおいてISO TC204 WG18の第1回国際会議（CEN TC278 WG16との合同会議）が開催された。この会議では、ISO TC204におけるWG18の役割について、「協調型ITSの標準化における国際的な協働・調和について主導的な役割を果たすことがWG18の主要な役割と認識する」との総会決議が採択され、ISO TC204の既存の各WGがすでに取り組んでいる作業項目（WG3の地図に関する作業項目、WG9のセンター間通信に関する作業項目、WG14の車両制御に関する作業項目等）については、既存の各WGの取り組みを尊重することとなった。この趣旨に従い、ISO TC204ニューオーリンズ総会中にWG14との合同会議が開催されたほか、今後各WGとの合同会議が開催される予定である。

(7) 今後の課題

協調システムの標準化は、長期的な視点で見た場合、インフラ側システムのシステム構築や調達のコストを大幅に削減する可能性がある。協調型ITSの標準化に関する国際協働の動きはまだ始まったばかりではあるが、M/453の達成期限が約2年後であることを考慮すると、今後急速に進展する可能性があるため、今後の動向に注視する必要がある。